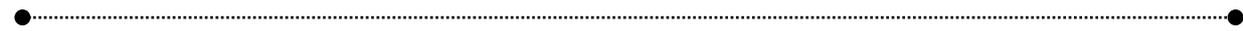


平成 30 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小谷サイクルツーリズム事業
事業主体 (連絡先)	小谷村 観光振興課 TEL 0261-82-2585
事業区分	(5) グリーンシーズンを中心とした観光誘客とインバウンドの推進
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,909,881 円 (うち支援金: 1,177,000 円)



事業内容

国を挙げたサイクルツーリズムの高まりと健康志向とから、自転車旅の需要がある台湾に照準を絞り、北アルプスと頸城山塊に抱かれた小谷村の山岳サイクリング「ヒルクライムコース」を、温泉・塩の道沿線の古い集落・田園風景といった歴史・文化的コンテンツと合わせてサイクリストに向けて発信し、グリーンシーズンの集客を狙う。

- ・ 小谷村を自転車で旅する爽快感を感覚的に伝えるプロモーション動画を SNS で発信し、エリア情報をホームページで確実に伝えるプロモーション
- ・ 小谷村でのサイクリングに興味を持った台湾の旅行会社への FAM トリップとサイクリストへのモニターツアーを企画して、集客のための動線を作る



【台湾向けモニターツアー】

【目標・ねらい】

- ① 新たな観光資源づくり
- ② インバウンド集客体制作り
- ③ 受入体制整備
- ④ 小規模ビジネスの創出

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 電動アシスト自転車のレンタサイクル事業を観光事業者負担が少ない、持続的な形で軌道に乗せたことで、一般観光客も地域住民も共に小谷を自転車で走る楽しさが手軽に味わえるようになった
- ② クオリティの高い動画の発信とホームページでの多言語によるエリア情報発信により、小谷ヒルクライムコースの知名度が向上しビジター数が増えた
- ③ 台湾の旅行会社やサイクリストに実際に小谷を訪れてもらう機会を行ったことで、受入に必要なロジスティクスに関する知見が得られ、空港からの動線が繋がった

※自己評価 【 A 】

【理由】

サイクルツーリズムを推進するためのインフラ整備、情報発信、地域の理解、安全管理、受入体制をバランス良く整えることができた

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

自転車アクティビティの拠点となるサイクリングターミナルが柵池高原にでき、旅行手配サービス登録も整ったので、地域の宿泊施設や飲食店、アクティビティ業者と一体となって「自転車旅のしやすいエリア」にするためのサービス向上に努め、国内・海外を問わず自転車ツアーを定期的な受け入れる体制を万全にし、知名度をさらに上げていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある